

ンとは異なる振舞いをしており、前者は動きの遅い対流雲群から構成されていたのに対し、後者は動きの速い対流雲群から構成されていた。

つくば地区での shallow cumulus に関する牧歌的研究

蒲生 稔（資源環境技術総合研究所）

好晴積雲をぼんやり眺めていると牧歌的気分に浸れますが、好晴積雲の出現時間、雲量、タイプ、減衰などが、何により決定されているかを知ることは、積雲により混合層内の大気が上空へ汲みだされるときの混合層の発達式を求めるために必要になります。好晴積雲の発達出現は教科書では断熱図上で考えられている。しかし定性的で日々の積雲の出現発達減衰を十分に説明できているとは言えない。最近では、混合層高度と凝結面高度の発達過程、混合層の貫入領域と積雲の出現領域の関係など混

合層構造との関係から調べられつつある。好晴積雲の雲底高度 hc 、持ち上げ凝結面高度 hl 、混合層内温位が地上気温より 1.5°C 低いとして求めた混合層高度 hm の関係について調べた。 hm が hl に接近すると積雲が湧き、そのとき hc と hl は、ほぼ等しく、 hm は前2者より 200 m ほど低くなる。これは太陽が熱源の陸上の混合層に特徴的なことと考えられる。地表面近くのサーマルがあまり周囲と混合せずに上昇して雲を結ぶためか、混合層内温位が地上気温と同じとして求めた昔の混合層高度と雲底高度は一致した。また hl と hm の差が小さくなるほど雲量が増加する。 $hl-hm < 200\text{ m}$ で雲量5以上、 $hl-hm > 400\text{ m}$ で快晴となっている。積雲発生の条件として初期の気象条件（早朝の相対湿度、安定度の鉛直分布など）から、概略的に雲量のクラス分けが可能であった。

第19回日産学術研究助成募集

助成対象

次に掲げる研究分野の基礎研究、および応用研究とします。若手・中堅研究者の積極的な応募を期待しております。

① 人間と機器との係わりに関する研究

——重点助成——

② 資源・エネルギーに関する研究

③ 自然環境および都市環境に関する研究

④ 新しい機能材料に関する研究

⑤ 生命現象に関する研究

①～③は人文・社会科学分野の応募を歓迎します。

助成内容

種別	一般研究		奨励研究
	(A)	(B)	
研究の性格	学際的共同研究	準備的共同研究	若手研究者の個人研究
助成額	1500万円 限度 (2～3年)	300万円 限度 (単年)	200万円 限度 (単年)
採択件数	10件程度	15件程度	35件程度

●詳しくは募集要項参照のこと

応募方法（学・協会推薦）

●当財団所定の申請書に記入し、財団指定の各学・協会へご提出下さい。（人文・社会科学系は財団までご相談下さい。）

●締切日：（6）日本気象学会に7月15日必着

●奨励研究は学・協会へ申請されたもの全件の推薦をお願いしています。

●関係書類は175円切手同封のうえ、下記へ直接ご請求下さい。

●照会先：財団法人日産科学振興財団

〒104 東京都中央区銀座6丁目17番2号

Tel. (03) 3543-5597 Fax. (03) 3543-5598